

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点  
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」  
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2020年4月27日 提出

1. 研究課題名	
「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究 (英文標記: Study on Construction of "Old photograph GIS database on Kamo River" and Transition Analysis of River Environment)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな) いいつか たかふさ	所属機関・職名
飯塚 隆藤	愛知大学地域政策学部・准教授
3. 研究分担者 (合計: 5名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
やの けいじ 矢野 桂司	立命館大学文学部・教授
たにばた ごお 谷端 郷	宮崎産業経営大学 法学部・講師
おおむら じゅんぞう 大邑 潤三	東京大学地震研究所・ 特任研究員
さとう ひろたか 佐藤 弘隆	立命館大学文学部・ 特任助教
しまもと かずゆき 島本 多敬	滋賀県立琵琶湖博物館・ 学芸員

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>本研究課題は、京都・鴨川に関する古写真のデジタル・アーカイブを進め、鴨川における河川環境の変遷を読み解くためのデータ基盤「鴨川古写真 GIS データベース」を構築することである。これまで、河川環境を対象とした古写真の系統的な収集および分析手法は未確立であった。鴨川においても景観の変遷を古写真から明らかにする研究は少ない。そこで、近現代の京都に関わる古写真のデジタル・アーカイブを進めている立命館大学アート・リサーチセンターの古写真データベースを活用して、鴨川が写る古写真の撮影地点を同定してGIS化することで、断片的に収集された古写真が統合され、河川環境の変遷を系統的に分析することができるようになる。加えて、関連機関と連携して鴨川に関する古写真のデジタル・アーカイブも充実させる。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>本研究の成果として、以下の2点にまとめられる。</p> <p><b>【1. 写真データベースの更新】</b></p> <p>2019年度は2018年度にプラットフォームとして構築した「京都の河川景観 写真データベース」を用いて、掲載した写真の撮影地点を同定し、橋ごとに分類し、時系列に整理した。また、年代や撮影地点の異なる絵葉書類も新たに入手し、写真データベースの更新を図った。</p>

## 【2. 鴨川の景観変化の分析】

各自で「京都の河川景観 写真データベース」の分析を進めつつ、研究会を2回実施した。議論のなかで、四条大橋が最も古写真数が多く、幅広い年代のものが揃っていることから、まずパイロットケースとして、四条大橋を中心に分析を進めることに決めた。研究成果として、2020年3月日本地理学会春季学術大会(於:駒澤大学)にて発表した。

## 6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

## (1) 著書

- ① 蔣湧・湯川治敏・駒木伸比古・飯塚隆藤・村山徹・小川勇樹著『地域研究のための空間データ分析入門— QGISとPostGISを用いて—』、共著、2019年3月、古今書院、飯塚隆藤、42-53頁
- ② 橋本学・大邑潤三・加納靖之著『京都の災害をめぐる』、共著、2019年9月、小さ子社、大邑潤三
- ③ 山田浩之・赤崎盛久編『京都から考える都市文化政策とまちづくり—伝統と革命の共存—』、共著、2019年11月、ミネルヴァ書房、佐藤弘隆、72-92頁
- ④ 上杉和央・加藤政洋編『地図で楽しむ京都の近代』、共著、2019年2月、風媒社、島本多敬、18-21頁

## (2) 論文

- ⑤ 飯塚隆藤「三遠南信地域における歴史 GIS データベースの構築」、単著、2019年7月、『越境地域政策研究論集』、593-602頁、査読無
- ⑥ 飯塚隆藤「航空写真を用いた船舶 GIS データベースの構築とその分析—淀川中流域を事例として—」、単著、2019年3月、地域政策学ジャーナル第8巻(第1号第2号合併号)、9-24頁、査読無
- ⑦ Yuzuru Isoda, Akio Muranaka, Go Tanibata, Kazumasa Hanaoka, Junzo Ohmura, Akihiro Tsukamoto, “Strengths of Exaggerated Tsunami-Originated Placenames: Disaster Subculture in Sanriku Coast, Japan”, Co-authored, September 2019, ISPRS International Journal of Geo-Information 8(10) 18 pages - (Open Access Journal) , Peer-reviewed
- ⑧ 加納靖之・大邑潤三・山村紀香・濱野未来「法蓮寺堂再建記木札」と応永一四年の地震」、共著、2019年7月、地震第2輯 72、53-56頁、査読有
- ⑨ 矢野桂司・佐藤弘隆「京町家の空き家の現状と課題」、共著、2019年3月、統計 70-2、9-15頁、査読有
- ⑩ 島本多敬「19世紀初頭の災害図出版における書肆の役割—1802年淀川水害の事例から—」、単著、2019年3月、人文地理 71-1、7-28頁、査読有

## (3) 研究発表等

- ⑪ 飯塚隆藤・谷端郷・大邑潤三・佐藤弘隆・島本多敬「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析—四条大橋を中心に—」、2020年3月、2020年日本地理学会春季学術大会、駒澤大学、査読無

## (7) 科学研究費助成事業

- ⑫ 飯塚隆藤「東海地方における近代水陸交通の地域的变化に関する歴史 GIS 研究」、若手研究、2018年4月—2021年3月、代表
- ⑬ 谷端郷「「地域の文脈」モデルを用いた歴史災害研究の提案—昭和戦前期の都市水害を事例に—」、若手研究、2019年4月—2021年3月、代表

## (8) 競争的資金等(科研費を除く)

- ⑭ 大邑潤三「災害碑のメタ分析 -伝わる記憶. 伝わらない記憶-」、一般財団法人防災研究協会・若手研究者研究助成、2019年4月—2020年3月、代表